実践報告

イベント運営が大学生トレーナーの意識に与える影響

―「第26回学生トレーナーの集い」運営を通して ―

The impact of event management on the awareness of university trainers

― Through the operation of the “26th Student Trainer Gathering” ―

体育学部健康科学科
河野　儀久
KAWANO, Yoshihisa
Department of Health Science
Faculty of Physical Education

Abstract：The purpose of this study was to investigate changes in the awareness of student staff through the operation of the 26th Student Trainer Gathering, and to use this as basic data to obtain useful knowledge for student trainer education. A questionnaire survey was conducted on 51 staff members who manage the Pacific Rim Student Trainer Gathering. The options were numbered from 1 to 10 so that the answer to the questionnaire would be scored on a scale of 10. Average values for groups by department (physical education and health science), organization (student trainer team SAT and volunteer staff), and event role (appointment, bus, hotel, accounting, planning, public relations, others, volunteer) compared. A t-test was performed for each department and affiliation, and a one-way ANOVA was performed for each event role. In addition, they were asked to freely describe “what they thought was good about the operation of the association” and “what they thought was bad about the operation of the association,” and analyzed it using text mining. The above results are detailed below.

キーワード：学生トレーナー，学生トレーナーの集い，運営，意識

Ⅰ．緒言

【学生トレーナーの集いとは】

「学生トレーナーの集い」は，学生トレーナー同士の情報交換を目的として1998年に第１回が国際武道大学で開催された。

単に講演やシンポジウムを聞くのみでなく，大会を通して，学生同士のグループワークを行ったり，各大学の学生トレーナーの活動内容を報告しあったりすることで，同じ夢や目標，課題を持っている仲間と同じ時間を過ごし，情報交換，情報共有し合うことを目的としている。

主宰当番校の学生主体で運営を行っている本会は，今大会で26回目の開催となる。学生トレーナーの集いは学生トレーナー界における一大イベントとして，全国各地の学生トレーナーに認知されている大会である。

【学生トレーナーの集いの歴史】

第１回　国際武道大学
第２回　筑波大学
第３回　国際武道大学 トレーナーに求められているものとは？
第４回　東海大学 21世紀の学生トレーナー活動 ～発展のための提言～
第５回　大阪体育大学 学生トレーナーの未来
第６回　国際武道大学 社会から求められるトレーナー
第７回　筑波大学 考え，悩み，そして実行
第８回　武庫川女子大学 学生トレーナーの可能性
第９回　仙台大学 For the Athlete
第10回　国際武道大学 伝えたい，過去から未来へ残すべきもの ～道～

第11回　早稲田大学 新時代のトレーナー像
第12回　中京大学 Share ～一人ひとりの挑戦～
第13回　東海大学 ACTION
第14回　帝京平成大学 Colors
第15回　日本体育大学「志」こころざし
第16回　帝京大学 井の中の蛙，大海を知れ!!
第17回　武庫川女子大学 共鳴
第18回　中京大学 ～探求芯～
第19回　九州共立大学 初志貫徹
～今，何しよーと？～
第20回　国際武道大学 繋
～これまでの繋がり，これからの繋がり～
第21回　法政大学“破”～break the wall～
第22回　中京大学 守破離
第23回　開催中止
第24回　国際武道大学 道
～過去から今，そして未来へ～
第25回　中京大学 想造 ～きっかけをかたちに～
第26回　環太平洋大学 再燃[1) 2) 6)]

【第26回学生トレーナーの集いの概要】
開催日時：
１日目：2023年３月９日13：00～18：00
２日目：2023年３月10日９：00～13：00
会場：
フィロソフィア・ディスカバリー
メイン会場：サザンクロス（９・10日使用）
その他会場：
ディスカバリーの各教室
フィロソフィアの各教室
インスパイア・トップガン・鍼灸整骨院・実技室・グラウンド（10日使用）
内容：
１．トレーナーとしてのスキルアップに関する基調講演やグループワーク，イベント等
２．トレーナー教員による，トレーナー教育に関する意見交換や交流会等（図１，２）[2) 3)]

以上のようなイベントを，本学の学生トレーナーが主催し運営していくこととなった。

この「第26回学生トレーナーの集い」を運営することによる学生スタッフの意識の変化を調査し[4) 5)]，学生トレーナー教育にとって有益な知見を得るための基礎資料とすることを本研究の目的とした。

Ⅱ．方法

環太平洋大学学生トレーナーの集い運営スタッフ51名を対象とし，アンケート調査を実施した。

アンケートの回答結果が10段階のスコアとなるように，選択肢を１～10の数字とした（表３）。

グループを学科別（体育学科および健康科学科），所属団体別（学生トレーナーチームSATおよびボランティアスタッフ），イベントの役割別（アポイントメント，バス，ホテル，会計，企画，広報，その他，ボランティア）に平均値を比較した（表１-３）。

学科別および所属団体別にはt検定を実施し，イベントの役割別には一元配置の分散分析を行った。

統計ソフトはエクセル統計（株式会社BellCurve）を使用した。

また，「本会の運営を通じて良かったと思う点」「本会を通じて悪かったと思う点」について自由記述をさせ，テキストマイニングにより分析を行った。抽出語の頻度（多く出現していた語の確認），共起ネットワーク分析（抽出語間の結びつきを探る），階層的クラスター分析（抽出語間の特徴をつかむ），対応分析（抽出語間の結びつきや，テキストの部分ごとの特徴を探る）を行った。分析にはKH Coder3を使用した。

表１　対象者（n：51）

性別	男性	女性				計
	33	18				51
学年	1年生	2年生	3年生	4年生	卒業生	計
	25	10	15		1	51
学科	健康科学科	体育学科				計
	48	3				51
所属団体	SAT	ボランティア				計
	43	8				51

※学年は2022年度の学年

表２　本イベントにおける役割と人数内訳

役割	人数
アポイントメント	8
バス	5
ホテル	3
ユニホーム	1
会計	2
企画	9
広報	11
黒子	1
司会	1
実行委員長	1
ボランティアスタッフ	9
合計	51

表３　質問内容一覧

質問	回答（スコア）
全体の内容について、どう思いますか？	1：悪かった～10：良かった
スタッフの数について、どう思いますか？	1：少ない～10多い
実行委員会の組織の運営・連携について、どう思いますか？	1：うまく行かなかった～10：うまく行った
自身の業務量について、他のスタッフと比べて（相対的に）どうだったと思いますか？	1：少ない～10多い
自身の役割についての達成度はどのくらいですか？	1：できなかった～10：よくできた
開催（準備期間も含む）の前後を比較して、スタッフ間の人間関係の変化についてどう思いますか？	1：悪くなった～10：良くなった
第26回学生トレーナーの集いを通して、自分自身の成長に役立ったと思いますか？	1：役立たなかった～10：役立った
第26回学生トレーナーの集いを通して、将来トレーナーになりたいという意欲は高まりましたか？	1：低下した～10：高まった

Ⅲ．結果

回答のスコアに有意差が見られたものについて記述する。

【学科別の比較】

質問「自身の業務量について，他のスタッフと比べて（相対的に）どうだったと思いますか？」については，健康科学科のスコアが5.10，体育学科が3.67であり，健康科学科が有意に高い値であった（P<0.05）。

質問「自身の役割についての達成度はどのくらいですか？」については，健康科学科のスコアが7.75，体育学科が3.67であり，健康科学科が有意に高い値であった（P<0.01）。

表４　学科別の比較

質問）自身の業務量について、他のスタッフと比べて（相対的に）どうだったと思いますか？
回答）1：少ない～10：多い

学科	n	平　均	標準偏差	差
健康科学科	48	5.10	1.87	*
体育学科	3	3.67	0.58	

質問）自身の役割についての達成度はどのくらいですか？
回答）1：できなかった～10：よくできた

学科	n	平　均	標準偏差	差
健康科学科	48	7.75	1.85	**
体育学科	3	3.67	0.58	

*：P<0.05、　**：P<0.01

【所属団体別の比較】

質問「全体の内容について，どう思いますか？」については，SATのスコアが8.86，ボランティアが7.63であり，SATが有意に高い値であった（P<0.05）。

質問「自身の業務量について，他のスタッフと比べて（相対的に）どうだったと思いますか？」については，SATのスコアが5.33，ボランティアが3.38であり，SATが有意に高い値であった（P<0.01）。

質問「第26回学生トレーナーの集いを通して，自分自身の成長に役立ったと思いますか？」については，SATのスコアが9.02，ボランティアが7.50であり，SATが有意に高い値であった（P<0.05）。

表５　所属団体別の比較

質問）全体の内容について、どう思いますか？
回答）1：悪かった～10良かった

所属団体	n	平　均	標準偏差	差
SAT	43	8.86	1.26	*
ボランティア	8	7.63	2.07	

質問）自身の業務量について、他のスタッフと比べて（相対的に）どうだったと思いますか？
回答）1：少ない～10：多い

所属団体	n	平　均	標準偏差	差
SAT	43	5.33	1.48	**
ボランティア	8	3.38	2.77	

質問）第26回学生トレーナーの集いを通して、自分自身の成長に役立ったと思いますか？
回答）1：役立たなかった～10：役立った

所属団体	n	平　均	標準偏差	差
SAT	43	9.02	1.34	*
ボランティア	8	7.50	3.02	

*：P<0.05、　**：P<0.01

【役割別の比較】

質問「スタッフの数について，どう思いますか？」については，会計とホテル，広報の間で非常に有意差が見られ（P<0.01），会計と企画，バス，その他，ボランティアの間，アポイントメントと広報の間で有意差が見られた（P<0.05）。

質問「自身の業務量について，他のスタッフと比べて（相対的に）どうだったと思いますか？」については，その他とボランティア，バスの間で非常に有意な差が見られ（P<0.01），ボランティアと広報，企画，会計との間，その他とアポイントメントの間に有意な差が見られた（P<0.05）。

質問「開催（準備期間も含む）の前後を比較して，スタッフ間の人間関係の変化についてどう思いますか？」については，アポイントメントとその他の間で非常に有意な差が見られ（P<0.01），その他と広報，会計の間，アポイントメントとホテルの間に有意な差が見られた（P<0.05）。

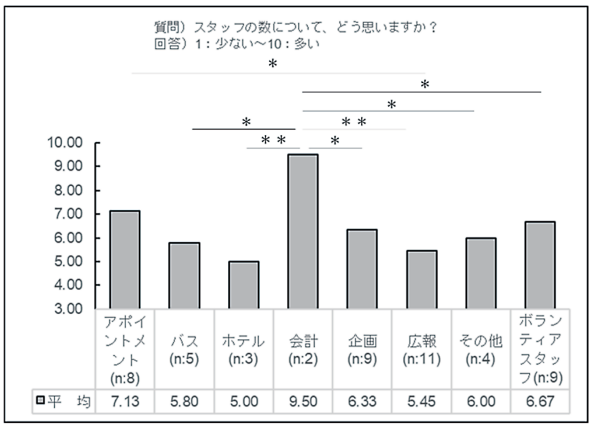

図１　役割別の比較①

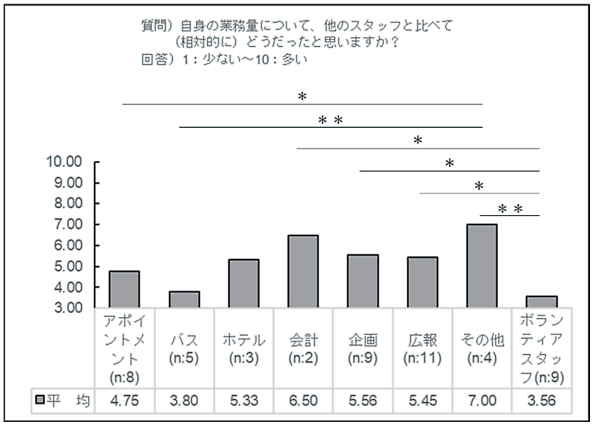

図２　役割別の比較②

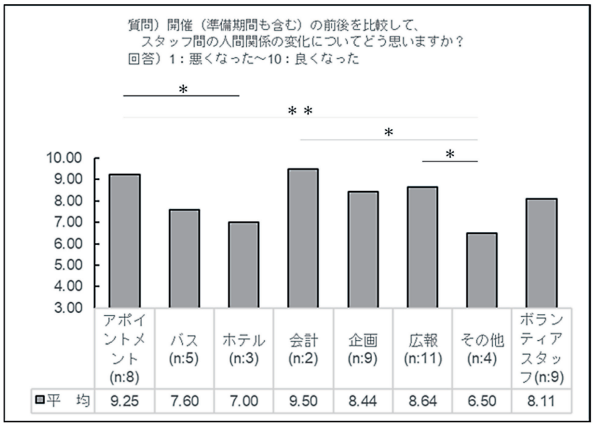

図３　役割別の比較③

【自由記述】

以下の２つの質問に対する自由記述の回答について，抽出語の頻度，階層的クラスター分析，共起ネットワーク分析をそれぞれ行った。

質問①「第26回学生トレーナーの集いのスタッフとして働いて良かった点について，思うところを自由に記述してください」 について。

抽出語の頻度（表６）の上位は，経験（７），自分（６），人（６），学生（５），思う（５），行動（４），準備（４），トレーナー（３），学べる（３），イベント（２）などであった。

階層的クラスター分析では６つのクラスターに分類され，①行動，持つ，トレーナー，話，学校，様々 ②人，動かす，普段，仕事，指示　③今後，プラス，言葉　④笑顔，積極，役割，思う，イベント，学べる，学生，他校，方々　⑤コミュニケーション，友達，増える　⑥大変，自分，経験，準備，行う，運営，企画。以上の結びつきが示された。

共起ネットワーク分析で中心性の高い形態素は，経験，自分，人，行動などであり，結びつきの強い形態素は，今後，プラス，言葉などであった。

質問②「第26回学生トレーナーの集いのスタッフとして働いて悪かった点について，思うところを自由に記述してください」について。

抽出語の頻度（表７）上位は，思う（７），聞ける（３），スタッフ（２），チーム（２），リハーサル（２），学年（２），講演（２），受付（２），進める（２），人（２）などであった。

階層的クラスター分析では４つのクラスターに分類され　①講演，聞ける，対応，遅れる，受付，人 ②話し合う，チーム，進める　③スタッフ，学年，役割，思う　④リハーサル，想定，増える，通る。以上の結びつきが示された。

共起ネットワーク分析で中心性の高い形態素は，聞ける，などであり，結びつきの強い形態素は，思う，であった。

表６　抽出語の頻度（良かった点）

No	抽出語	頻度
1	経験	7
2	自分	6
3	人	6
4	学生	5
5	思う	5
6	行動	4
7	準備	4
8	トレーナー	3
9	学べる	2
10	イベント	2

表７　抽出語の頻度（悪かった点）

No	抽出語	頻度
1	思う	7
2	聞ける	3
3	スタッフ	2
4	チーム	2
5	リハーサル	2
6	学年	2
7	講演	2
8	受付	2
9	進める	2
10	人	2

Ⅳ．考察

【学科別の比較】

これらは，健康科学科の学生が率先して仕事に取り組んでいたことが考えられる。その理由として，健康科学科の学生は柔道整復師（医療国家資格）を取得し，アスレティックトレーナーとして活動することを目的としている傾向があることが考えられる。そして「学生トレーナーの集い」の趣旨も，アスレティックトレーナーの内容を主としたものであることから，体育学科の学生に比べ健康科学科の学生が意欲的に活動に取り組んだ可能性が考えられる。

【所属団体別の比較】

SATのスタッフは，約１年間かけて「学生トレーナーの集い」の運営を行っており，状況に応じた判断が必要な業務，ゲストスピーカーや他大学の教員への対応業務等，重要な役割をこなす必要があったが，ボランティアスタッフについては，本番の日のみの参加となり，業務を駐車場の誘導や，会場の誘導など，簡易な業務に限定したものであったことが，このような結果となった理由として考えられる。

【役割別の比較】

会計の人数に比べて他の役割のスタッフは人数が少ないと感じる傾向があることが分かるので，人員配置について考える必要があったことがうかがえる。

「その他」のスタッフが，自身の業務量が多かったと感じていることを示している。「その他」とは，ユニホーム（１人），黒子（１人），司会（１人），実行委員長（１人）である。彼らには交代要員がいなかったことから，自身の業務量が相対的に多いと感じていた可能性がある。従って，体調不良等により欠員する可能性も考えると，助手や補助または交代要員を配置する等の配慮が必要であったことが考えられる。

相対的にスタッフ間の関係は，開催前後で良くなったことを示している。特にアポイントメント（n：８），企画（n：９），広報（n：11）等，人数が多く，情報交換を密に行った可能性がある役割の値が高かった傾向があるが，人数の少ない会計（n：２）の値が9.5と最も高かったことは，人数が少ない分スムーズな情報交換ができていた可能性も考えられる。

【自由記述】

分析の結果から，「良かった点」については，様々な経験，行動ができ，人に指示を出して動かす仕事を通して，今後の自分にプラスになったこと。そのためには積極性，笑顔，言葉遣いが重要であることを学べたこと。他大学の方々とのコミュニケーションを通して友達が増えたこと。企画・運営・準備等を行うことは大変な経験であったが，それがプラスになった。等と感じている傾向があったことが示された。

一方，「悪かった点」については，スタッフ，チーム，学年，役割等の関係の中で様々な仕事を進める上で，「聞く」ことに対して問題を感じている傾向が示された。つまり，コミュニケーションについて問題を感じていた傾向があることが示された。

Ⅴ．結論

「第26回学生トレーナーの集い」を運営することによる学生スタッフの意識の変化を調査し，学生トレーナー教育にとって有益な知見を得るための基礎資料とすることを本研究の目的とした。

学科別の比較では，体育学科より健康科学科のスタッフが，積極的に業務に携わっていた傾向が示された。役割別の比較では，ボランティアスタッフよりSATの学生が積極的に業務に携わっていた傾向が示された。

「良かった点」については，様々な経験，行動ができ，人に指示を出して動かす仕事を通して，今後の自分にプラスになったこと。そのためには積極性，笑顔，言葉遣いが重要であることを学べたこと。他大学の方々とのコミュニケーションを通して友達が増えたこと。企画・運営・準備等を行うことは大変な経験であったが，それがプラスになった。等と感じていた傾向があったことが示された。

一方，「悪かった点」については，コミュニケーションについて問題を感じていた傾向があったことが示された。

引用文献

1）中京大学トレーナー部会編（2022）「第25回学生トレーナーの集い報告書」

2）環太平洋大学報道用資料（2023）「IPU/環太平洋大学スポーツ科学センタートレーナー育成プロジェクトSAT「第26回学生トレーナーの集い」開催のご案内

3）環太平洋大学学生トレーナーチームSAT（2023）「第26回学生トレーナー集いHP」https://sattrainertsudoi26.jp/

4）河野儀久（2022）「大学生トレーナーの資格・進路に関する意識調査（コロナ禍以前と以降の比較）」環太平洋大学研究紀要20，133-139

5）河野儀久（2020）「大学生トレーナーの資格および進路に関する意識調査」環太平洋大学研究紀要16，223-228

6）大阪体育大学第23回学生トレーナーの集い実行委員会編（2020）「第23回学生トレーナーの集いHP」「学生トレーナーの集い歴史」https://ouhs-tudoi23.jimdofree.com/%E5%AD%A6%E7%94%9F%E3%83%88%E3%83%AC%E3%83%BC%E3%83%8A%E3%83%BC%E3%81%AE%E9%9B%86%E3%81%84%E6%AD%B4%E5%8F%B2/